

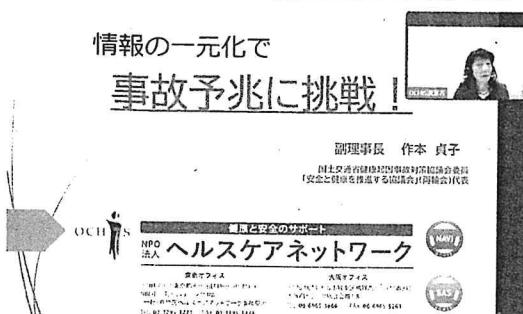
## 健康管理がテーマ

OCHIS WEBセミナー

ヘルスケアネットワーク(OCHIS)主催で国交省後援の第15回OCHISセミナーが16日、開催された。今回は新型コロナ感染防止の観点から、Webセミナー形式での開催となった。テーマはアフターコロナを見据えたドライバーの健康管理、情報の一元化で事故リスクの予兆発見」で、Zoomにて全国の事業者が視聴した。

武田裕理事長は「限られた時間ではあるが、セミナーが有意義なものとなるよう祈念する」とあります。

その後、国土交通



最後に作本  
眞子副理事長は、「情報の一元化で事故予兆に挑戦!」と題し、情報提供。OCHISの独自調査でト

大原記念労働科学研究所の酒井一博氏全日本トラック協会交通・環境部部長の大西政弘氏による3つの基調講演が行われた。

課課長の谷合隆氏、保健師は、「ドライバーの生活習慣の現状について」をテーマに、2018年から行われている生活習慣アンケートをもとに、飲酒習慣や喫煙習慣の変化などを実際の数字を示しながら説明した。

続いてコロナ禍における事業者の取り組みとして、OCHISの平田範江マネージャーが、堀内運送経営企画室・人事課課長の三浦隆志氏に生インタビュー。コロナ禍でのワクチン接種の社内方針などについて聞いた。

眞子副理事長は、「情報の一元化で事故予兆に挑戦!」と題し、情報提供。OCHISの独自調査でト

ラックドライバーにおける高血圧者の実に8割が疑SASであることが判明したこと」を説明した。(木村麻理奈)